

第2回FD研修報告

「コミュニケーション研修 ー聞かせ上手をめざしてー」

講師： 福田健 (株) 話し方研究所
日時： H18年2月21日(火) 13:00～16:30迄
場所： 共通講義棟 L104
参加者： 15名

●研修内容

最初に福田先生から「話を聞いてもらうためのコミュニケーション」についての講義があり、その後、グループに分かれて討議を行って代表者が内容の要約のスピーチ、そしてそれを受けて福田先生からのアドバイスを含めた「話し方」についての講義、という3部構成で行われた。

第1部：講義

[1] 話には相手がある ー相手を聴き手にすることー

- ・ コミュニケーションは人間関係そのものである。
- ・ 聞き手に話の効果の決定権がある。
- ・ 聴衆を聴く気にさせる工夫が必要である。
- ・ 話の「意味」や「効果」は聞き手に決定権がある。
- ・ 聴衆分析の重要性
- ・ 聴き手は親近感と警戒感をもって接する

[2] 受信は理解ではない ー「話せば分かる」は思い上がりー

- ・ 思いがけない受け止め方をされる
- ・ 相手を責めても自分のレベルは上がらない
- ・ 自分の思い上がりに気がつくこと
- ・ 相手と自分は違うことに気づき、違いを認めることが大切
- ・ 結果にくよくよししない、完璧を考えても仕方がない

第2部：グループ討議&発表

4名ずつの4グループに分かれて、授業、講義で気になっていること、問題点、改善点などを「話す」ということを中心に話しあい、まとめる。その後、代表者が、聞き手を意識して、短く、中心になる話をスピーチする(1分：300～350字)

程度)

1G 福原隆子(看護学科)、斎藤正一(社会福祉学科)、山川修(情報センター)
発表者：牧野智恵

2G 畑野相子(看護学科)、北條蓮英(社会福祉学科)、菊沢正裕(情報センター)
発表者：小林明子

コミュニケーションの問題を念頭に、授業での課題や工夫について話し合った。

- 1 学生の受講動機が異なる時、どの層に焦点を当てるか難しい。工夫としては、身近なテーマでワークショップを取り入れると議論が弾む。内容を盛りだくさんにしすぎるとダメ。
- 2 受講動機が違って、人数が多くても参加型の授業を取り入れると学生の学ぶ姿勢はいい。学生に自分の意見を言わせると、他の学生の刺激にもなり効果的。しかし、国家試験との関連において知識として伝えなければならないこともあるので、一方的な授業をせざるを得ない時もある。
- 3 e-ラーニングやWebCTを使ってテストなどを提示し、自らが学ぶ環境を提供して効果をあげている。選択演習などでは、学部による学生のニーズや特性を配慮している。オンラインテストでは、学生は答えを求めるが、提示しないで考えさせることを実行している。

視聴覚機器をうまく使うこと大事であるが、資料作成に時間がかかり、機器のトラブルへの対処も難しいので、サポート体制が望まれる。

3G 高原美樹子(看護学科)、赤川晴美(看護学科)、津村文彦(学術情報センター)

発表者：田中求之

授業の形態やカリキュラムによって違いが多々あるが、話し方ということでは、1：場のコントロール(場の雰囲気を崩さずに叱るには？出席者数の調整)、2：どの程度でわりきるのか(50名のうち2名でもいいのか？「わからなかったけど面白かった」のはよい授業なのか？)、3：バランス(分からせることと知識の伝達のバランスの取り方、丁寧に話すと遅れてしまう)の3点が共通の話題としてまとめられた。

4G 塚越フミエ(看護学科)、大塩まゆみ(社会福祉学科)、細谷純子(看護学科)
発表者：細谷純子

講義、講演、少人数グループなど、集団によって話し方を変えている。その1つである講義は、連続して行うことや、伝えたい内容が沢山あるので、つい話の基

本をなおざりにしてしまう。特に聴衆分析が重要だが、①世代間のギャップがある ②学生の関心の差が大きいので、どこに焦点を当てるか迷う（国家試験に必要な知識もある） ③聞き手の気持ちが分からない、などで、実際は学生を掴みにくい。それは、最近の学生は反応が少ないという特徴のためであると思われる。

第3部：総括

発表を受けて、具体的なアドバイスをしながら、まとめの講演があった。

日々のトピックを取り込む

・話の発見のために、日頃の生活で身近なものに注目して、意味を裏打ちする具体例を探して、蓄える。

- ・日常の退屈さに降参しない、初心者視点でものを見る
- ・慣れすぎないこと、うまくなりすぎないこと

目標をどこに置くか

- ・最大公約数を見出す
- ・理解を目的とするか、理解したことを身に付けさせるのを目的とするのか
- ・分かり方の深さをどれぐらい期待するのか

聴衆の層をいかに分析するか

- ・いかにつかむか

表現を豊かにする

- ・表現とは、自分にしかわからないことを、相手に分からせる、というもの
- ・言葉の限界がある
- ・言葉の工夫が必要、言葉に敏感になること
- ・言葉の蓄え場所を自分の中に作る
- ・比喩、具体例、エピソードの活用
- ・ユーモア＝距離を持って見直す、視点を変えて見直す
- ・ビジュアル（のバランス）も重要

●研修の雰囲気・感想

講師は日常のありふれた出来事や体験(具体)を、ユーモアたっぷりに話して下さったので、教室には笑いが溢れてゆったりしたひと時でした。そして、受講者は笑っているうちに概念(抽象)を理解していたように感じました。きっと、講義そのものが、「聞かせ上手になるために」の具体例だったのでしょう。また、日常の関心や過ごし方の心がけやコミュニケーション訓練をしないとこの姿勢が身に付かないことを教わりました。